

活動報告

花いつぱいの

つきのき学園

から送り出したい！

「つきのき学園」は、昭和43年に設立されました。しかし、平成21年3月末で閉園されることになりました。

私達（V G 槻輪）が、

園芸指導員としてお世話になったのは、平成18年度からです。学園内で園芸を通じて「ふれあい」を大切に思っています。「ふれあい」とは、植物とのふれあい、土とのふれあい、人とのふれあいを大切に考えてきました。園芸と言う共同作業を通じてふれあうのです。

園にはいつも、野菜があり、花が咲いているようにと、少しでも場所があれば耕し農園や花壇にして、種や苗を植えて来ました。

化学肥料や農薬散布をしない自然農園を目指して来しました。

園の利用者には、花いつぱいの園であったとの

思いを持って欲しいと努力しています。

閉園時にも、花いつぱいにしたいものと、今回、高橋明美さん（V G 槻輪の園芸指導員）が、花の苗を作っておられる農家の方に事情をお話しして「葉牡丹の苗」をたくさん無償で頂くことができ、園の中に植えることも出来ました。

S・O

清掃ボランティア

に参加して

私の住んでいる町の川が汚れていて気になっていました。

V G 槻輪の神保吉孝さんが、川の清掃活動に活躍しているのを知り協力することにしました。

場所は、富田団地内を流れる津之江水路と日野川との合流点から下流の番田井路水路に向けての約700m、川幅12m、水深約30cm、1m、川底はコンクリートのようです。上流からこの地点までは清流になっている。ずっとその先は、吹田市の神崎川に流れています。故に上流を綺麗にしない

と意味がない。

本日は3回目です。

今までの2回は、主にゴミ拾い、空き缶、空き瓶から始まって、単車、自転車、生活用品、工事関係品あり、ありとあらゆる廃棄物が、ヘドロの中に埋まっています。鉋等でかき混ぜると、次から次ぎと、沢山現れてきます。これを袋に入れて堤防に引き上げる。ある程度集まると市役所へ連絡し清掃課が引き取ってくれる。

土砂やヘドロは完全に撤去出来ないで役所が予算化して施工するが、費用が1000m当たり6千万円かかるとか。

本日の作業は合流地点

に出来た中州の山、約10畳位の広さを4人で、切り崩して平らにし流れを良くすること。大きな石は流れを仕切る堰にする。残る土砂は深い所に運ぶ、勿論ゴミも混じっています。これを撤去する。

そんな土砂の中に蛙や蛇、ウナギが冬眠している。安全な場所に移してあげる。休息の為にそこから離れると、すかさず小鳥が飛んで来て、ミミズなどの餌をついばむ。寒い水の中での作業だが汗ばむ程の力仕事です。腰までくるゴム長靴と腕までのゴム長手袋をして

の作業故に体勢が不安定

甘辛チャンネル

平成21年

です。その上にヘドロの臭いには参ります。それでも辛抱して頑張らなければと励んでいます。私達の住環境を良くし、魚達が快適に生息出来る川にし、そして楽園になる様にしたい。

M・N

昭和22年新憲法が公布、施行されました。その時筆者は中学2年生でした。新しい憲法の前文を暗記させられ、社会の時間に新憲法の内容に就いて学習しました。

先生も生徒も斬新的な内容に「新しい時代が到来した」と非常に興奮した記憶が鮮明に頭に残っています。

半世紀以上この世に生かされて、沢山の人と出会い、沢山の人の言葉が私なりに教訓として心に残っています。

その言葉の二つを語ります。

雑草の如くあれ〃
小学校6年生の5月に新潟県に疎開が決まった時、担任の先生が短冊にスズランの絵を添えて下さいました。

初心忘るべからず〃
昭和21年旧制の新潟県立柏崎高等女学校の入学式で校長がおっしゃった言葉です。

この二つの言葉は何十年経っても心から離れませんが、果たしてその頂いたお言葉通りに私は生きていくのか反省の日々です。

N・Y

四季彩

きんかん

科名：蜜柑（みかん）科

別名：「姫橘（ひめたちばな）」

花期：夏から秋にかけて白い花を咲かせる。中国原産 日本への伝来は、1826年に静岡県 遠州灘沖で遭難し清水港に寄港した船員が、助けてくれた地元の人へ砂糖漬けの金柑果実をプレゼントし、その種が育って日本に広まったといわれる。「金」は実の色から、「柑」は「柑子（こうじ）」でみかんの古い名前。「金橘」とも書く。みかんの小型の実が鈴なりに成る。皮がついたままでも食べられる。砂糖で煮込んで金柑漬けでたべる。のどあめとして使われる。 T・N